

ポンマチネシリ第4火口での地温連続観測では、地温は平成20年11月の小噴火以降急速に低下し、熱活動に変化はみられない。また、平成18年3月の小噴火によって形成された北西噴気下部の噴気地帯では高温域の縮小および地温の低下傾向が続いている。

平成22年6月にGPS連続観測点(3地点)の受信機を1周波から2周波に更新した。これまでのところ火山活動によると考えられる変動は観測されていない。

水質分析の結果、山麓の湯の滝において平成20年からの成分濃度の増加傾向が続いている。

2. 14. 2 十勝岳

(担当)：岡崎紀俊・村山泰司・石丸 聡・田村 慎

十勝岳の観測は平成22年6月、7月、9月、10月および平成23年2月に実施した。主な結果は以下のとおりである。

平成22年6月にGPS連続観測点(2地点)において受信機を1周波から2周波に更新した。平成18年秋頃から62-II火口周辺が膨張する地殻変動が進行しているが、火口周辺の膨張傾向は継続して観測されている。一方、火口温度、地温連続観測および繰り返し1m深地温測定の結果では、熱活動に大きな変化はみられない。

2. 14. 3 樽前山

(担当)：村山泰司・岡崎紀俊・田村 慎・荻野 激

樽前山の観測は平成22年6月、10月および11月に実施した。主な結果は以下のとおりである。

最も熱活動が活発であるA火口、ドーム中腹のB噴気地帯の噴気温度は、熱電対による直接測定でそれぞれ600℃以上、400℃以上であり、高温状態が継続している。

2. 14. 4 有珠山

(担当)：田村 慎・岡崎紀俊

有珠山の観測は平成22年7月および11月に実施した。主な結果は以下のとおりである。

西山山麓火口群N-B火口の火口底噴気地帯の最高温度は昨年度と同様に99℃であった。西山山麓火口群周辺における1m深地温測定の結果、火口群北西側の地熱域では平成20年6月から続く地温低下傾向が継続している。

2. 14. 5 駒ヶ岳

(担当)：岡崎紀俊・荻野 激

駒ヶ岳の観測は平成22年7月、10月および平成23年3月に実施した。主な結果は以下のとおりである。

昭和4年火口および96年南火口列での熱活動、火口原南側における地温連続観測、南西山麓～東山腹間のGPS基線長、および山麓における湧水・温泉水の成分濃度のいずれも大きな変化はみられなかった。